

「持っているものを持ち寄って生かす、人のかけらを持ち寄るジグソーパズルのような社会へ」

2020年5月1日 渡戸千穂

「私のかげらよ力強くはばたいてゆけ」『Pieces』 L'Arc~en~Ciel

「誰もがみんなそれぞれの世界の中で輝くようになってんだ」

『Are you ready to ride?』 TETSUYA

新自由主義がもたらした、「ねたみによる引きずり落とし」や「自己責任による切り捨て」に象徴される「他者を蹴落とす社会」は、コロナ禍で破綻している。誰もが明日が分からず、誰もが感染者となるのかもしれないのだから。

しがみつくことをやめたい。しがみつこうとすると「上」しか見えない。芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のようにしがみついて他者を蹴落とすことは、結局は自らもろとも落ちてしまうことに他ならない。

誰もが不完全なのだから、大人になっても政治家になっても不完全なのだから。

そして、自分の感性に100%合うもの、自分の利害に100%合致するものは、最初からこの世には存在しない。完璧な親や先生や上司や政治家や社会は、この世に存在しない。瞬間的にあっても、それは永続することはない。

持っていないことや非を責められると頑なになり、持っていないことを、非を、認めなくなる。対話を重ねて自らに引き寄せるしかない。

「持っていないことを責めて排除ししがみつキ他者を蹴落とす社会」から、「持っているものを持ち寄って生かす、人のかけらを持ち寄るジグソーパズルのような社会」へ。

「多様性を持つ他者と共生し他者を包摂できる社会」(「ダイバーシティ」というのかもしれないが、誰かこの言葉を日本語に適切に訳してほしい)へのパラダイムシフト(「社会全体の価値観の構造転換」だと思う。誰かこの言葉を日本語に適切に訳してほしい)を目指したい。

そして、完璧な人はいない、間違えない人はいない。完璧な政府は存在しない、間違えない政府は存在しない。人に更正という考え方があるのならば、政治や社会も更正させよう。叱咤激励し、育てよう。